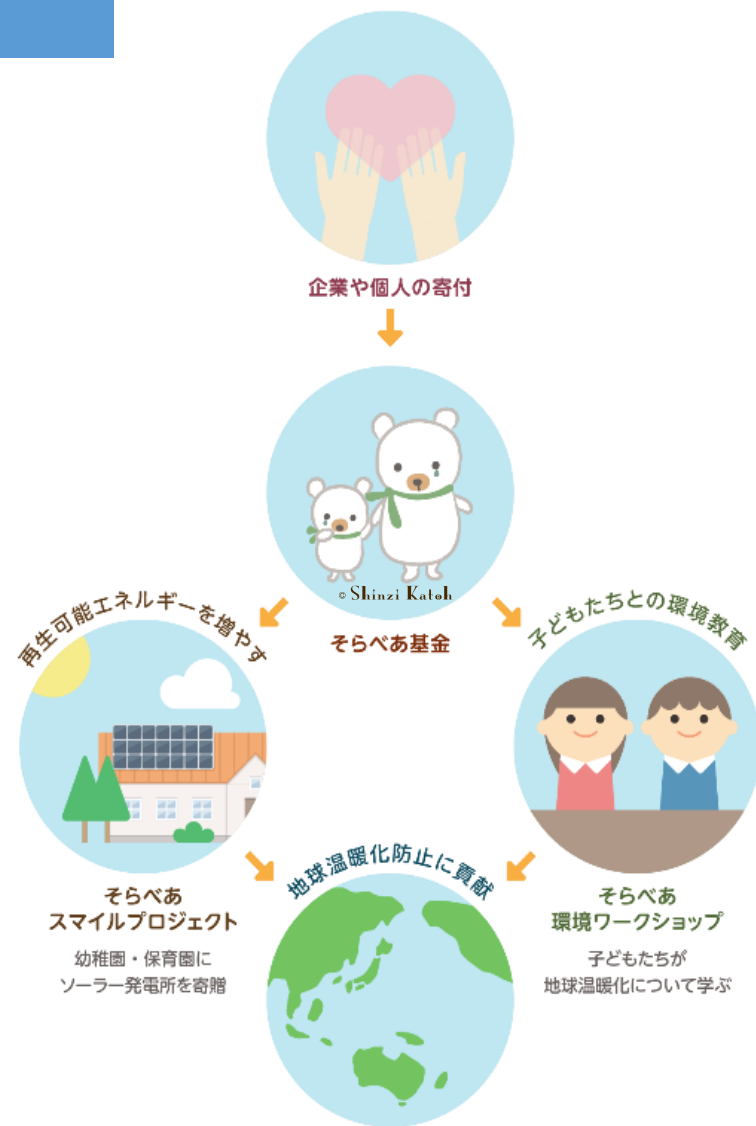


特定非営利活動法人そらべあ基金

地球温暖化の影響で氷が割れ、お母さんと離ればなれになってしまい泣いている
ホッキョクグマの兄弟「そら」と「べあ」をシンボルキャラクターに、
地球環境問題の解決に寄与することを目的に活動するNPO法人です。
活動は企業や個人の寄付により支えられています。

設立	2008年4月
代表理事	富田 秀実
所在地	東京都港区
事業内容	- 再生可能エネルギーの普及啓発事業： そらべあスマイルプロジェクト - 環境教育事業： そらべあ環境ワークショップ、サステナブルおえかきコンテスト、 小学生向け環境ウェブサイト「そらべあエコジャーニー」運営、 そらべあソナエルプロジェクトなど
経緯	<u>2006年</u> - 東京都が中心となったTOKYOソーラーシティプロジェクトのキャラクターとして「そらべあ」誕生 <u>2007年</u> - お台場にある東京都立潮風公園に、そらべあのだ太陽光発電施設「ひだまり〜な」が完成 - 任意団体として「そらべあ基金」誕生 <u>2008年</u> - 特定非営利活動法人として、第1回そらべあスマイルプロジェクト公募開始 <u>2011年</u> - ソーラーパワートラックで東日本大震災の被災地支援活動 <u>2025年</u> - そらべあスマイルプロジェクト100基目到達（現在103基目までを実施中）
ご支援いただいている企業・団体	ソニー生命保険株式会社/ソニー損害保険株式会社/ ゼロワットパワー株式会社/リフェコ株式会社/株式会社G&ECO/ 株式会社雨宮/株式会社ハンス/株式会社毎日新聞社/ 株式会社RT/株式会社NTTスマイルエナジー/ 株式会社シール堂印刷/日本風力開発株式会社/ キューピーグループマッチングギフト制度〔Q P e a c e〕 /kolmikko



そらべあスマイルプロジェクト概要

目的	再生可能エネルギーの普及啓発と、子どもたちへの環境教育を行うことで、地球温暖化防止に貢献する
累計	設置済み96基、公募数103基（2025年8月現在募集中含む）
活動内容	- 太陽光発電設備「そらべあ発電所」（5kW相当）を日本全国の幼稚園・保育園・こども園の屋根に寄贈し、再生可能エネルギーの創出及び、園での環境教育に役立てていただく。 - 園と協力して寄贈記念式典を開催し、園児向け環境ワークショップを実施。 - 園には「そらべあ紙芝居」を、また、在園児全員に「そらべあ絵本」をプレゼント。「そらべあ」物語のストーリー性を活かし、子ども達の心に響く環境教育を促進。 - 園や協賛社と協力して、積極的な広報活動により地域の再生可能エネルギー普及への意識啓発に繋げる。 - 発電力量調査を実施し、全寄贈園での発電力量および、それによるCO2削減効果を毎年報告する。 - 寄贈後3年間は園内の環境教育活動プログラム「そらべあちゃんの日」を支援し、園での環境教育の定着を図る。
スキーム	右上の循環図のように各ステークホルダーの活動・行動を促進し、持続可能な社会への循環を目指す。
波及効果	- 寄贈園公募の周知にあたっては、自治体のこども支援課や環境政策課などにご協力いただき、地域連系を促進するプログラムとなっている。自治体が主導的に動いて応募いただくケースもあり。 - 寄贈記念式典ではTVや新聞、Webなどのメディアに取材いただき、再生可能エネルギーの普及啓発の重要性を広く一般市民に伝える機会を創出。 - 寄贈園から、保護者や地域社会へ、太陽光発電設備の寄贈および、園児への環境教育の様子などを発信していただいている。 - 当基金が支援する園内の環境教育活動プログラム「そらべあちゃんの日」では、年度末に報告会を実施し、参加園（約18園）をオンラインでつなぎ、園児向け環境教育のよい事例を共有し学び合える場となっている。子ども達への教育により、再生可能エネルギーが当たり前という意識が育つと考える。 - 停電時の非常用電源としての活用についても促し、園や地域の災害対策としても活用していただいている。 - 地域の施工店に設置工事を依頼することで地域経済へ貢献。



そらべあスマイルプロジェクト実績

100基を超える寄贈

- 2025年3月公募回で100基目に到達（現在寄贈園選考中）
- 2025年6月公募回では、101-103基目を募集（現在募集中）
- 2025年は9月以降に3基募集の予定

（変遷）

- 2020年公募回までは、3kWの太陽光発電設備を寄贈
- 2021年公募回より、5kWに増やし、また、環境教育支援プログラム「そらべあちゃんの日」を導入
- 東日本大震災の復興支援として、3県（岩手、福島、宮城）限定の募集なども実施

園の教育・保育活動に、寄贈した「太陽光発電設備」や「そらべあちゃんの日」や紙芝居を活用していただき、また、子どものみならず、保護者や地域にも活動の情報発信をしていただいています。



【参考】全国の寄贈先の場所とレポートは、下のMAPからご覧いただけます。
<https://www.solarbear.jp/smileproject/#smileprojectmap>

発電量・CO2削減効果

- 2008年からの2024年12月までの17年間で、247万kWhを発電（杉の木換算で84,849本分のCO2削減）

◆2024年 実績報告

調査数（園）	86園
発電量合計	約247万kWh
CO ₂ 削減量	約1,188 t-CO ₂ ※1
杉の木換算	約84,849本 ※2



【備考】

- 累計期間：2008年～2024年12月末
- *1 環境省が発表している「電気事業者別排出係数（代替値）」に基づいて算出
- *1 2024年の「電気事業者別排出係数（代替値）」は2023年係数を仮値として算出
- *2 50年杉1本の1年間のCO₂吸収量は14kg（出典:林野庁）として算出
- 環境省による「電気事業者別排出係数（代替値）」の確定値公開後、当データも確定値で再算出し確定するため、次年度報告で誤差が生じます

そらべあスマイルプロジェクトを通じた意識啓発活動

寄贈記念式典での 環境教育とメディア取材

● 環境教育ワークショップ

式典内で園児向けに実施。「そらべあ」物語を紙芝居で読みかかせた後、地球温暖化のお話やクイズ、発電実験などを行い、再生可能エネルギーの活用について理解を深めます。



「そらべあ」物語の紙芝居



クイズも交えて地球温暖化についてのおはなし



手回し発電実験で扇風機が回る様子



たくさんのご来賓や保護者も出席
(市長より祝辞も賜りました)

● メディア取材



式典後のメディア取材の様子

琉球新報：
<https://www.youtube.com/watch?v=TRjHed-ppJA> (約55秒)

東日本放送：
<https://www.youtube.com/watch?v=LLf76h6xXR0> (約1分30秒)

奈良テレビ：
<https://www.youtube.com/watch?v=Y3WjCQeeASQ> (約1分30秒)

「そらべあちゃんの日」 寄贈園での環境教育活動支援プログラム

- 当基金が用意する4つの活動から園が選択して取り組みます。
- 「お天気しらべ」では寄贈した太陽光発電設備を活用して、お天気と発電量の関係について学びます。

お天気しらべ (調べる活動)



毎日、お当番が天気や発電量を調べ、給食の前に発表した。
「今日は晴れだね」
「今日の発電量は？」と意欲的に取り組んでいた。
(のぞみ保育園実施レポートより)

モニターで確認した発電量を電力マークのマグネットの数で記録。
太陽、雲、雨などのお天気マグネットで記録した天気との関係を探る

その他のそらべあちゃんの日活動



ソーラーランタン (つくる活動)



緑のカーテン (育てる活動)



そらべあのきもち (対話の活動)

環境教育事業 (再生可能エネルギーへの理解促進)

- ワークショップでは、小学生とその保護者を対象に、自治体や学校での講座やイベントなどで、温暖化防止のための行動変容を促し、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの普及啓発につながる内容を、楽しく学ぶ環境教室を行っています。
- 「そらべあソナエルプロジェクト」は、温暖化により増える**自然災害に備える**ための製品寄贈とともに、「環境」×「防止」のワークショップを実施します。
- オンラインでは、**環境情報ウェブサイト**や**おえかきコンテスト**を通じた小学生向けの学びの場を提供をし、リーチを広げています。
- 6年目となる学生ボランティアクラブの運営、また、その卒業生による大学生インターンなど、若者向けの**次世代育成**にも取り組んでいます。
- 2024年度末で約34,000人に環境教育を届けました。(そらべあスマイルプロジェクトの活動含む)

ワークショップ



ソーラーLEDちょうちんづくり



ホッキョクグマと地球温暖化について学ぶ



「そらべあソナエルプロジェクト」

ウェブサイト



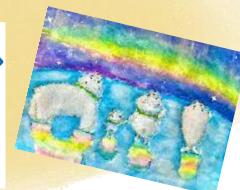
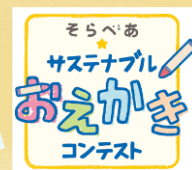
「そらべあエコジャーニー」
小学生向け環境情報ウェブサイト

次世代育成

大学生インターン
学生ボランティアクラブ (中高生)



コンテスト



2025年11月末締切で実施中 テーマ: 「そらべあの涙をとめよう」

今後の提言 (展望)

「そらべあ発電所」100基に到達した節目に、これまでの活動を継続しつつ、以下などを検討し活動を発展させていきたいと考えています。

- 蓄電池との組み合わせによる効率的な電力利用
- カーポート式、ソーラーシェアリングなど新しい設置方法で寄贈先選択肢の拡大
- 太陽光発電の課題 (廃棄物問題、環境への影響、災害リスクの増加) にどのように関与できるか
- 貴団体の会員企業とのコラボレーション